

子どもへの意見聴取について（案）

1 意見聴取実施日

令和3年3月下旬～5月下旬

2 意見聴取方法

(1)区ホームページでの聴取

(2)中野区立中央図書館での企画展示(子どもの権利について)での投書箱の設置

※意見聴取方法は、現時点で想定しているものを記載している。

※中野区子どもと子育て家庭の実態調査(令和2年1月)の自由記述欄への意見も活用する。

3 意見聴取の設問

(1) _____

(2) _____

(3) _____

意見聴取をする内容について

【宿題】

子どものへの意見聴取について、どのような内容を聴取すれば、子どもが答えやすく、条例の考え方に反映することができるか。

【各委員からの回答】

・小中学校で子どもの権利についてのワークショップを開催できれば、子どもの意見を聞く機会となります。
・外国籍、不登校児、障害児など生きづらさを抱えている子どもに対しては個別ヒアリングができればよいと思います。

・子どもからみて、①大人がよく頑張っていると思う点、そのままでいいと思える点は？②大人にもっと頑張してほしい点、変わってほしい点は？（なお、意見聴取の方法は面談(web 利用も含め)が基本だとは思いますが、文字にしてもらう(「文通」のような)ことも有意義かと思います。)

・一人一人が感じていることと一緒に、自分を含めた今のこどもはどんなことを考えているか、という聞き方をしてみてもどうか。友達と話している中身も引き出せるかもしれない。
例:今の子どもは(お金のことで/遊びのことで/勉強のことで etc)どんな事に困っていると思いますか。

・時間もないので、子どもたちに認められている権利を YES/NO で聞く。
例えば、
「子どもは大人に意見を言う権利がある YES/NO」
「誰もいじめられてはいけない権利がある YES/NO」
・・・のように、子ども条約や子ども条例で子どもたちに当然に認められる権利を YES/NO で聴取し、基本的にはすべて認められる権利の質問であって YES となるべきアンケートとする。子どもの権利を勉強する良い題材にもなるし、NO が多い質問については権利に関する知識や教育不足であると認識し、今後の教育や広報の重点項目にすると良いと思います。

(難しい質問を Web で聞いても何の特典もなしにたくさんの子どもたちがわざわざアンケートのページにアクセスして難しい回答はしないと思うこと、また、大量に回答を集めるなら小中学校に依頼し、道徳やホームルームの時間で子どもたちに回答してもらうことも考えられますが、自由に書いてもらうと中学生にもなると学校に忖度して正直な回答は得られないかなと思います。集計作業も読んだりデータ化するのも大変だと思います。)

第 2 回中野区子どもの権利擁護推進審議会

<p>・子どもが生き生きと楽しく生活し、心身ともに健やかな成長につながっている部分、また逆に、子どもが困っている、悩んでいることを聴取できる内容がよいと思う。</p>
<p>・発達段階に合わせて、有識者に確認する必要がある。回答は、4段階の選択式がよいと思われる。</p>
<p>・案(1)はもう少し答えやすい設問に変更されたいと思います。</p>
<p>・この 1 年間でできなかったことは何ですか。 ・1年前の自分に何か言いたいことはありますか。 ・10 年後の自分はようになっていたらいと思いますか。 ・誰にも相談できないことはありますか。</p>
<p>・何をしている時が一番楽しいか ・もし総理大臣になれたら、子どもたちのためにどんなことをしてあげたいか</p>
<p>・まず、何について・何のためのヒアリングなのかをわかりやすく提示する。子どもの権利とは何を指すのか、条例とは何なのか、なぜ必要なのか、そもそもまちの取り組み(施策等)がどのように決められているか・・・などの前提認識も併せて共有する。 そのうえで、子どもの権利(条約)と照らして、自分の権利が守られていると感じるか、どのような場面で守られている・いないと思うか、それがどうなったらよい・・・などを具体的にアイデア出ししてもらえるとよい。</p> <p>・2020 年 9～10 月に江戸川区で実施された「子どもの権利ワークショップ」では、2 日間に分けて、1 日目:権利条約やまちづくりに関して学ぶセッション、2 日目:日々感じていることやおとなに知ってもらいたいことを意見出しするワークショップ、という形式でおこなわれたそう。 https://www.facebook.com/ekombuds/posts/3304398049610033 2019 年秋、国の「子どもの貧困対策大綱」の見直しに向けてセーブ・ザ・チルドレンがおこなった子どもインタビューも参考に。 https://www.savechildren.or.jp/scjcms/sc_activity.php?d=3141</p>
<p>「権利と聞いてどのようなイメージがありますか？自分に身近な言葉ですか？」 子どもが自分事として感じられるための言葉を、聞き出せればと思います。</p>

■アンケートで聴く内容は、大きく4つの権利に絞った質問が必要かと思う。

(生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利)

- ・どんな生き方がしたいのか、
- ・どんな子ども自体を過ごしたいのか、
- ・どんな方法で守って欲しいのか？
- ・自分の意見をどんな方法で聴いて欲しいのか？

という内容が必要かと考えた。

■意見を聴くということについて、「子どもの権利」というものがどこに規定されているのか、普段の生活や学校でも特段教えていない上に、現在の日本の教育、家庭教育のなかで重視されているのは、大人の言うことを従順に聞くということなので、主張していくことをあきらめてしまっている子どもも多くいると思う。

そんな土壌を乗り越えていくような質問内容、体制などを整える必要がある。

■子どもの権利について年齢や理解度に合わせてレクチャーし、子ども同士の意見を聴き合うワークショップを行う。自分の考えをまとめたり、他の意見を聴くことによって、より自分事として考えやすいのではないだろうか。

自分の感じる「嫌なこと」の延長線上にあるのが「子どもの人権」なんだと分かる、そういったワークショップを展開できることが理想的だと感じる。

■非常に難しい宿題だったので、私の関わる「ナイス！な親プロジェクト-こども＆おとな会議」の子ども委員に協力していただきました。いただいたアンケート案(①～⑤)をベースに意見を聴きました。

《アンケート案》

案①あなたにとって「あたりまえの幸せ」を教えてください。

案②あなたのおきの居場所や楽しみを教えてください。

案③聴かせてください。あの時ガマンしたけれど、本当は言いたかったこと。

案④教えてください。あなたが大人になっても大事にしたいこと。

案⑤聴かせてください。あなたが大人に一番伝えたいこと。

《アンケート内容についての意見》

■簡潔に答えられるような質問にしてほしい。何て答えればいいのか悩むうちに時間切れになりそう。

■案①あたりまえという言葉いらないのでは？

■案②とっておきって言われても…、見つけづらい、答えにくい。落ち着く場所ならあるけど。

■倒置法で抒情的に聞かないでほしい。

■案④は絶対ふざけてまともな答え書く人少ないと思う。私はふざけちゃうと思う。

■案⑤については、どうせ聞かないから、大人に言うことない。

■伝えるという言葉より、言いたいの方が言葉としてピタツとくる。

「こども委員がアンケートを考えてみた！」

④ベース

「将来、あなたが親になった時に、大事にしたいことは何ですか？」

→子どもが大人になった時に大切にしたい事を探る質問。

⑤ベース

「あなたが大人に言いたいことはありますか？その大人は誰ですか？」

→子どもが現状抱えている大人との課題を浮き彫りにする質問。

①ベース

「あなたにとっての『しあわせ』を教えてください」

→子どもの願いや希望を探ることができる質問。

「アンケートの実施方法についての意見」

■質問の言葉選びは、要点簡潔に、回答しやすいように内容に。

■質問の量と回数は、複数回だとうんざりするので1度で。選択制なら15問、記述式なら10問程度が良いと思う。

■アンケート用紙など個人が特定されやすい方法でなく、タブレットを使いGoogleフォームなど、完全匿名の状態でないとは本音は書かない。タブレットを使用する場合は、クラスごとよりも、学年ごとでアンケートを実施し匿名性を守って欲しい。

3. 子どもが SOS を出せる環境にどのくらいあるのか？

Q1①あなたが、「すごい面白い事見つけちゃった。誰かに話したいな〜っ」で思ったとき、思い浮かぶ人はいますか？

いる・いない

②それは、誰かな？

父・母・学校の先生・塾の先生・兄弟・友人・先輩・おじいちゃん・おばあちゃん・近所のおじさん・近所のおばさん・ライン上の知人・ゲーム上の知人・その他()

Q2①あなたが、「怖いと思って、困った、助けて」と伝えたいと思ったとき、この人に、話そうと思いつく人はいますか？

いる・いない

②上の②と同じ